



史跡武藏国分寺跡保存整備事業 ー 南門地区の整備報告ー

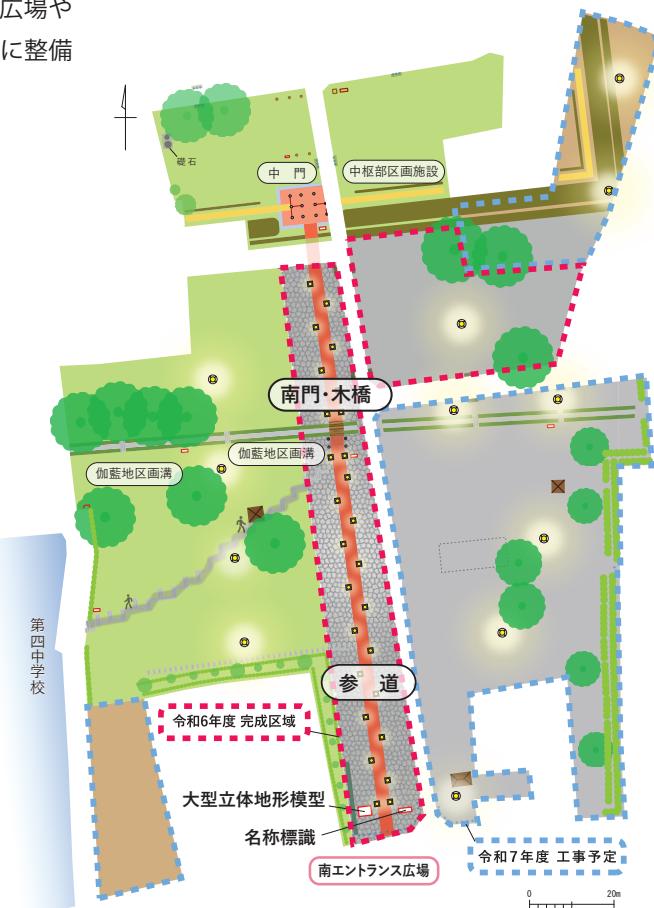
史跡武藏国分寺跡（僧寺地区）のうち、南エントランス広場や参道・南門を含む約4,500m²の範囲について、令和7年3月に整備工事が完了しました。是非、現地に足をお運びください。

南エントランス広場

史跡地南側の玄関口となるエントランス広場には、史跡名称標識と大型立体地形模型を設置しました。地形模型は陶板製で、国分寺崖線などの周辺地形を立体的に表現した上に、古代武藏国分寺の伽藍配置や東山道武藏路を明示し、その立地環境を見て触れて学習できるものとなっています。また、国分寺駅、西国分寺駅、線路、道路など現代のインフラも併せて表示し、その周りに遺跡や関連施設の説明も配置することで、史跡来訪者のための案内板としての機能も持たせています。

遺構の復元・表示

参道については、中門南側の調査と、東八道路の調査で検出した参道敷と思われる遺構（硬質面）を基に、推定ラインを朱色の舗装で表示しました。南側は府中市で見つかった参道口跡まで繋がるものとなります。伽藍地区画溝は、令和5年度と同じ仕様で半立体表示を行っています。南門は、発掘調査で大小二組の礎石据え方を確認し、2本の親柱の背後（北側）に控柱を立てた簡素な門であったと推定されています（資料館だより53号参照）。今回の整備工事では、原位置で、親柱と控柱の半立体復元を行っています。ところで、南門から伽藍地に入るために北側の区画溝を渡る必要があります。発掘調査で、当初は南門の北側で溝が土橋状に掘り残されてい



南門地区の整備計画

たものが、その後、溝を掘り直して木橋が架けられるようになったことが分かっています。今回の整備では、その木橋について立体表示を行いました。
(野中太久磨)



南エントランス広場と参道（南から）



大型立体地形模型（南から）



南門と伽藍地区画溝に架かる木橋
(南東から)



令和7年度夏季企画展 「学校ができた－昭和の記憶と国分寺市－」

学校の姿が木造からコンクリートに大きく変わった昭和の時代。皆さんご家族や地域の人々にとって、学校の誕生はどのような意味を持っていたのでしょうか。

昭和20年代後半から40年代にかけて、急激な児童数の増加に対応するため、わずか3校だった小学校は、20年の間に10校へと広がりました。それぞれの学校では、体育館、プール、給食室などの施設が充実してきました。学校は学びの場であるだけでなく、地域の人々が集う大切な場所としても活用されました。消防団の出初式、活気あふれる体育祭、青空市場や成人式、さらにはバレーボール大会やラジオ体操といった多彩な集いが、世代を超えたコミュニティの絆を育んできました。また、国分寺市の6校の校歌は、地域に暮らした著名な作曲家の信時潔が手掛けたもので、今なお多くの人々の心に響いています。

今回の企画展では、昭和の学校の姿を、貴重な記録写真や当時の資料を通して、学校と地域がいかに共に歩ん

できたか、その温かい記憶を皆さんにお届けします。かつての子どもたちが通った懐かしくも活気あふれる日々を感じていただける場、そしてこれから未来へ続く地域とのつながり、そんな時間を共に感じてみませんか。

- 期 間 令和7年7月25日(金)～9月15日(祝・月)
- 会 場 武蔵国分寺跡資料館 講座室
- 入館料 「おたかの道湧水園」への入園料が必要
- 休館日 月曜日(祝・振替休日の場合は直後の平日)



第四小学校正門前（昭和35年）

国分寺を訪れた江戸時代中期の文化人「大田 南畝」

江戸時代中期、大都市江戸は経済活動が盛んになり、江戸文化も花開きました。大田南畝（名は草、字は土耜、おおた なんばく たん しり 通称は直次郎、号は四方山人、蜀山人、四方赤良など）は、寛延2年（1749）3月3日、幕府の御家人の御徒（徳川将軍が江戸城から外出するときに徒步で警護する役）の子として、江戸牛込仲御徒町で生まれました。幼少から学問を好み、明和4年（1767）19歳で狂詩文集の「寝惚先生文集」を出版し、本草学者、蘭学者で、戯作などの著作がある平賀源内、吉原大門口の五十間道で本屋「耕書堂」を開店した鳶屋重三郎、狂歌師仲間（平秩東作、唐衣橋州・朱楽菅江・宿屋飯盛ら）と交流しました。

寛政6年（1794）46歳の時に、幕臣の学力試験である学問吟味において首席で合格し、2年後には幕府の役所の勘定所の支配勘定に昇進し、大坂銅座、長崎奉行所にも派遣されました。文化5年（1808）12月26日、60歳の時に、大雨による玉川（多摩川）の堤防の状況確認のため江戸を出発し、翌年4月3日まで流域の村々を見回り上流の羽村まで赴いています。南畝は、出張中の出来事を日記（『調布日記』）に書きつづっています。

文化6年（1809）2月24日に、公務の余暇を使って40年振りに国分寺村へ再訪し、恋ヶ窪村まで足を延ばしました。大田家には、先祖の由緒を記した文書の写しが

残されており、それによれば恋ヶ窪村が先祖の出身にあたり、名字の発祥の地であるとあります。村内では、東福寺や一葉松、傾城の松などを見て、村の里正（名主）には大田の名字の所在などをた



『近世名家肖像』大田 直次郎
(東京国立博物館 所蔵)

ずねましたが、先祖を確認できる資料がなかったことが記されています。この日は、清明（24節気のひとつ、祖先の墓に参り、墓を清掃する、春を迎えて郊外を散策する日）の翌日で、先祖のことを想い詠んだ狂歌が詩歌文集の『玉川余波』に収められています。

むさしのゝ 末もはるけき 遠つおやの
みかげを恋る 窪にこそいれ

晩年は転倒や病気により不自由な生活を送り、75歳で生涯を閉じました。

（佐々木秀明）

画像出典：国立文化財機構所蔵品統合検索システム

https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-9153?locale=ja

国分寺市文化財ふれあいカレンダー【令和7年度事業予定】

月	日（曜日）	行 事
4	18日（金）	●端午の節句飾り【旧本多家住宅長屋門】（5月6日まで）
	26日（土）	●「子ども歴史クイズラリー」（5月6日まで）【おたかの道湧水園ほか】
	29日（火）	●「拓本体験」【武藏国分寺跡資料館】
7	25日（金）	●武藏国分寺跡資料館 夏季企画展「学校ができた－昭和の記憶と国分寺市－」（9月15日まで）
	26日（土）	●缶バッジ作成（子ども向け）【武藏国分寺跡資料館】 ●明日華姫ちゃん・国分寺の文化財ぬりえ（子ども向け）（8月31日まで）【武藏国分寺跡資料館】
8	2日（土）	●「拓本うちわを作ろう」（子ども向け）【武藏国分寺跡資料館】※
	9日（土）	●缶バッジ作成（子ども向け）【武藏国分寺跡資料館】
	23日（土）	●「レプリカをつくろう」（子ども向け）【おたかの道湧水園】※
9	1日（月）	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【国分寺市役所】※
	25日（木）	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【国分寺市役所】※
10	上旬	●十五夜飾り【旧本多家住宅長屋門】
	7日（火）	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【国分寺市役所】※
	9日（木）	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【国分寺市役所】※
	10日（金）	●市内文化財めぐり ※
	18日（土）	●おたかの道湧水園・開園記念日 おたかの道湧水園無料公開 ●武藏国分寺跡資料館 秋季企画展「発掘された国分寺市 2025」（12月7日まで）
	22日（水）	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【武藏国分寺跡資料館】※
	25日（土）	●子ども向けクイズ（～11月3日まで）【武藏国分寺跡資料館】
	30日（木）	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【武藏国分寺跡資料館】※
	下旬	●十三夜飾り【旧本多家住宅長屋門】
11	2日（日）	国分寺まつり ●おたかの道湧水園無料公開 ●史跡ガイドボランティア現地説明（僧寺金堂跡・真姿の池湧水群ほか）定点ガイド ●「レプリカをつくろう」（子ども向け）【おたかの道湧水園】※
	7日（金）	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【武藏国分寺跡資料館】※
	13日（木）	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【武藏国分寺跡資料館】※
	30日（日）	●歴史講演会【本多公民館】※ ○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【本多公民館】※
12	上旬	●ヨウカゾウ展示【旧本多家住宅長屋門】
	23日（火）	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【国分寺市役所】※
	下旬	●正月飾り【旧本多家住宅長屋門】
1	上旬	●繭玉飾り【旧本多家住宅長屋門】
	17日（土） 18日（日）	多摩郷土誌フェア【立川市柴崎学習館】
	24日（土）	★市史編さん歴史講演会【東京経済大学 大倉喜八郎 進一層館 Forward Hall】
	26日（月）	文化財防火デー
2	上旬	●ヨウカゾウ展示【旧本多家住宅長屋門】
	7日（土）	●市外文化財めぐり「上総国分寺跡ほか」（千葉県市原市ほか）※
	中旬	●ひな人形展示（～3月上旬まで）【旧本多家住宅長屋門】
3	1日（日）	★市史編さん歴史講演会【cocobunjiプラザ（リオンホール）】

・記号説明：●→ふるさと文化財課主催・共催事業 ○→ふるさと文化財課愛護ボランティア養成講座

無印→ふるさと文化財課関連行事 ★→市史編さん室主催事業

【 】→会場 ※→事前申込制

・内容、日程は変更することがあります。

・事業の詳細は市報、または市のHPをご参照ください。

お問い合わせ先 国分寺市教育委員会 ふるさと文化財課

185-8501 東京都国分寺市泉町2-2-18 〈電話〉042-312-8682 〈FAX〉042-325-1380

INFORMATION

ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座のご案内

史跡武藏国分寺跡のガイドや文化財普及活動に携わる「文化財愛護ボランティア」を養成する講座を開催します。

ボランティアには2つの区分があります。

【史跡ガイドボランティア】

史跡武藏国分寺跡周辺で文化財を案内解説など

【文化財普及ボランティア】

文化財関連の講演会やイベント等の運営補助作業など

【日 程】 ふれあいカレンダー参照 (P.3)

【募集人数】 15名

【申込期間】 7月16日まで

申込み多数の場合は抽選、定員に満たない場合は翌日以降先着順で受付

【費 用】 無料

【申込方法】 申込書を下記の方法で提出

〈Email〉 bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp

〈直接〉 ふるさと文化財課（国分寺市役所3階）

〈郵送〉 185-8501 国分寺市泉町2-2-18 ふるさと文化財課

【講座会場】 国分寺市役所・武藏国分寺跡資料館ほか

【問合せ先】 ふるさと文化財課 (042-312-8683)

※「申込書」は、ふるさと文化財課、史跡の駅（おたかフェ）、文化財資料展示室（四中）、ひかりプラザ、市立公民館、地域センターで配布

市HPからダウンロードができます。

※詳細は、国分寺市報（7/1）・市HP

（6/25以降）をご覧ください。



武藏国分寺跡資料館ご利用案内



■交通のご案内

〔電車〕 ◎JR国分寺駅下車／歩徒約20分 ◎JR西国分寺駅下車／歩徒約15分

〔バス〕 国分寺駅下車

○「国分寺駅西」より国分寺市地域バス『ぶんバス』

万葉・けやきルート「史跡武藏国分寺跡」下車／歩徒約8分

○「国分寺駅南口」より『京王バス』

系統番号(83)・(85)乗車「泉町一丁目」下車／歩徒約8分

西国分寺駅下車

○「西国分寺駅東」より国分寺市地域バス『ぶんバス』

万葉・けやきルート「史跡武藏国分寺跡」下車／歩徒約8分

北多摩縄文スタンプラリー開催

5つのまちをまわって縄文を探検しよう！

調布市・東村山市・国分寺市・国立市・西東京市のポイントをめぐり、スタンプを集めて景品をもらおう。

【期 間】 令和7年7月19日（土）～令和8年1月25日（日）※景品の交換は2月8日（日）まで

【場 所】 市内の縄文ノート配布・スタンプ設置ポイントは、武藏国分寺跡資料館と文化財資料展示室の2か所

【景 品】 3ポイント：オリジナル野帳

10ポイント：ロゴ入り真空タンブラー

景品はなくなり次第交換終了

【費 用】 参加費無料

【問 合 セ】 東村山ふるさと歴史館 042-396-3800

※詳細は国分寺市報（7/15）・市HP（7/11以降）をご覧ください。



来館者数

多くのご来館ありがとうございました

2009年10月18日～2025年3月末日

来館者数累計 202,612名

【1月～3月の学校見学】

	学校	人数
小学生	3	183
中学生	2	62
高校生	1	16

【来園校】 市立四小、五小（6年生）、早稲田実業初等科（3年生）、府中一中、明星中学校（1年生）、和光高等学校（3年生）

月	来館者数	開館日数
1	577	24
2	727	24
3	970	26
計	2,274	74

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

■開館時間

午前9時～午後5時（入園は午後4時45分まで）

■休館日

毎週月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）

年末年始（12月29日から1月3日まで）

※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。（入園券は史跡の駅で販売）

一般……………100円（年間パスポート1,000円）

中学生以下……無料

〔入園料の減免規則があります〕

(1) 学校の教育活動で生徒（中学生を除く）、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕

(2) 身体障害者等及びその介護者が入園するとき

〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕

(3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき

〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕

※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。



ホームページ
二次元バーコード